乳幼児の熱中症への対応

乳幼児の熱中症では、特有の症状を認めることはほとんどなく、胃腸炎、感冒などの症状と類似し、なんとなく具合が悪そうということが多いです。体調不良を言葉で訴えることができないため、重篤な状態に進行してから気付かれることもあります。

意識障害があれば、脳に障害を来している可能性があり、大変危険な状態です。緊急で医療処置が必要となりますので、直ちに119番通報します。



熱中症を疑う症状

- ☑元気がない
- ☑あくび
- ☑大量の汗・顔のほてり
- ☑頭痛
- ☑ぐったりしている
- ☑ふらふらしている
- ☑吐き気、嘔吐
- ☑発熱
- ☑応答が鈍い（意識障害）

意識障害の確認

- 反応がない、鈍い
- けいれんが見られる
- 視線が合わない
- しゃべらない
- うとうと眠ってしまう
- つじつまの合わないことを話す

水分摂取の内容

- 経口補水液、スポーツ飲料等を補給する
- 経口補水液が飲めない場合、りんごジュースなどでもよい
- 乳児はミルクや母乳でよい



経過観察

外出を避けて涼しい室内で過ごす
水分を十分摂らせる

熱中症を疑う症状

涼しい場所に移動

- 涼しい室内に移動する（戸外なら風通しのいい日陰）
- なるべく薄着にさせる
- 衣類を緩めて休ませる



意識確認

意識障害の有無
- なし → 水分摂取ができるか
- あり → 119番通報

水分摂取ができるか
- できる → 症状改善の有無
- できない → 直ちに受診

症状改善の有無
- あり → 経過観察
- なし → 直ちに受診

119番通報 → 身体冷却

身体冷却

❶体を濡らし、風を当てる。
❷水で濡らしたタオルを全身に当て、様子をよく観察しながら取り換える。

直ちに受診

- 小児科
- 救急科



救急隊の到着を待つ

ナトリウム、カリウム、糖分が含まれている経口補水液が望ましいです。好みにより全く摂取ができない場合には、何も飲めないより、りんごジュースなど好んで飲んでくれる飲み物でよいのです。乳児には、普段から飲んでいる母乳やミルクを飲ませてください。

スプレーや霧吹きなどの水で体を濡らし、うちわや扇風機であおぐ（体表から気化熱を奪って体外から冷却する）方法が有効です。乳幼児では低体温のリスクもあるため、全身を氷水に浸けたり、氷水に浸けたタオルを全身に当て続けたりすることは推奨されていません。

